

新入生宿泊オリエンテーションの意義と効果 ～2013年度新入生の事例～

A CASE STUDY INVESTIGATING THE EFFECTIVENESS OF THE 2013 OFF-CAMPUS OVERNIGHT ORIENTATION OF NEW STUDENTS FROM THE DEPARTMENT OF BUSINESS CAREER OF SENDAI SEIYO GAKUIN COLLEGE

小形 美樹 青山美智子 太郎良留美 工藤三四郎

Miki OGATA, Michiko AOYAMA, Rumi TAROURA, Sanshiro KUDO

成澤 広幸 吉田 勝廣 ジョーンズ・ドミニク

Hiroyuki NARUSAWA, Katsuhiko YOSHIDA, Dominic JONES¹⁾

要 旨

ビジネスキャリア学科の2013年度新入生宿泊オリエンテーションは、①学生生活の基本を身につける、②友だちづくりの2点を目的に、学科の教員全員が協力して企画・実施した。2013年度は、学生が責任を持って主体的に行動し、仲間とともに成長していくためのきっかけづくりとなるよう、本学科の新入生の特徴に合わせたカリキュラムを作成した。教員が準備したビジネスゲームや宿泊施設のオリエンテーションゲームなども盛り込み、他者とのコミュニケーションを取るのが苦手な学生も自然に参加できるよう配慮した。その結果、例年より、授業中の私語が少ない、仲間とともに行事に積極的に参加する学生が増えたなどの効果が得られた。

キーワード：宿泊オリエンテーション、学生生活の基本、友だちづくり、研修ゲーム

1. 宿泊オリエンテーション実施の背景

仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科は本学開学から5年目を迎えた2013年4月、新入生119名を迎えた。ビジネスキャリア学科の新入生は、開学初年度と震災直後の2011年度にはそれぞれ67名と70名であったが、それ以外の年度は90名を超えている。また、ビジネスキャリア学科の学生は、本学他学科の学生のように職業資格（看護師等）を取得して専門職としての就職を目指すわ

けではなく、一般企業への就職を前提としている。漠然とではあっても卒業後の進路を決めている者もいれば、短大生活を送るうちに自分の適性を考え就職先や職業を選択するという者もあり、多種多様な学生が混在している。

このような中、昨今の大学生全般について指摘されていることではあるが、本学科においても、基礎学力が身につけていない、あるいは、コミュニケーション能力の欠如や基本的な生活習慣が身につけていないなどの理由により、他人との関係が

1) 仙台青葉学院短期大学 ビジネスキャリア学科
受理日：2014年1月31日

構築できない学生の存在が見過ごせない状況となってきた。特に、入学後に同級生との良好なコミュニケーションをとることができず、学内での居場所が見つけられない学生がいることは教員間でも深刻に受け止められた。なぜなら、このような学生は不登校となり、そのまま退学していくことが多いからである。

ともに学ぶ仲間の存在は、学生生活を充実させ、また、困難なことが生じた際に乗り越える原動力ともなる。よって、本学科では、新入生が短期大学生として求められる常識を身につけ、他者と良好な関係を築いていくための足掛かりとなるように、2012年度から新入生宿泊オリエンテーションを実施することにした。

本稿では2013年度生に対して行った宿泊オリエンテーションの意義と成果、そして、今後の課題について報告する。

2. 2012年度宿泊オリエンテーションの内容と実施後の検討事項

ビジネスキャリア学科が宿泊オリエンテーションを実施したのは2012年度生からであるが、2012年度の実施内容と反省点は以下のとおりであった。

(1) 2012年度宿泊オリエンテーション実施内容

- ①日程 2012年(平成24年)4月5日(木)～6日(金)
- ②場所 ベストウェスタンホテル仙台(宮城県仙台市泉区実沢中山南25-5)
- ③内容 新入生と在学生の合同で実施し、在学期間の有意義なキャンパスライフの過ごし方に関する説明および学年交流を目的とした。

(2) 反省と次年度の検討事項

実施直後の4月度学科会議では、次年度の対応について議論がもたれ、以下の点が反省と検討事項として挙げられた。

- ①宿泊オリエンテーションは新入生に限るべきではないか。
- ②宿泊オリエンテーションを行う意味があるのか。教務的説明や学校生活についての説明などは、すべて学内で実施できるのではないか。
- ③宿泊オリエンテーションは新入生の一体感の

醸成や友人作り、大学への帰属感の向上などに役立つことが広く他大学でも知られているので、次年度も続けるべきではないか。

- ④学科としてオリエンテーションの在り方を考え、オリエンテーションの目的を明確にする必要がある。そこから宿泊を伴うべきかどうか導き出されるのではないか。

以上の①については、会議の席上で学科教員の合意が得られたが、その他の事項については、参加学生にアンケートを採り、その結果を次年度に役立てるべきという意見が出され、簡単なアンケート調査を実施することとなった。

(3) 学生アンケート結果の概要

アンケートは対象者99名のうち、実施日当日に出席した94名に対して行い、回収率は100%であった。その結果、70%以上の学生が宿泊オリエンテーションについて良かったと答えていることがわかったが、学生間の交流については、ホテルで2人部屋であったため、効果を疑問視する声もあった。また、履修関係の説明については、宿泊を伴う必要を感じなかったという意見もあった。

アンケートの集計結果を基に、質問1～質問5について該当区分の集計数値を表計算ソフトでデータ処理を行い円グラフで表した。また、それぞれの質問に対し、項目ごとの理由欄に記載がなされているものについては原文をそのまま転記した。(図表1)

3. 2013年度宿泊オリエンテーションの企画

以上のように、2012年度宿泊オリエンテーションについては、教員が指摘した点と参加学生による評価がほぼ合致し、改善点が明らかとなったため、2013年度は、より充実した内容を盛り込んで企画することとなった。なお、宿泊施設の予約時期や学生数が増えたこと、また、オリエンテーションの性格や学生数を鑑み、対象者は新入生のみとし、「国立花山青少年自然の家」を使用することとした。この施設では学生12名～14名ほどで一部屋に宿泊することになるので、2012年度生が指摘していた「2人部屋は交流に向かない」という点

も解消できることとなった。

まず、2013年度のオリエンテーションの目的は、①学生生活の基本を身につける、②友だちづくりの2点に絞り、履修登録の方法や学生生活の注意点等、学校事務局や学生総合支援センターで説明する内容を重複して盛り込むことはせず、同級生との関係性が強化できるような研修を行うことと

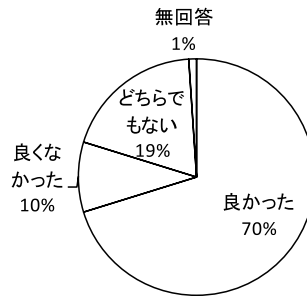
した。また、教員や新入生の役割分担を考え、2日間という短い時間で効率よく研修が進められるようにスケジュールを組んだ。

研修資料については学科内で確認した後、製本して冊子とし、オリエンテーション前日に学生に配布した。

新入生 99名	アンケート実施数	94
	アンケート回収数	94
	回収率	100.0%

【質問① 宿泊で行ったことについてどう思いましたか】

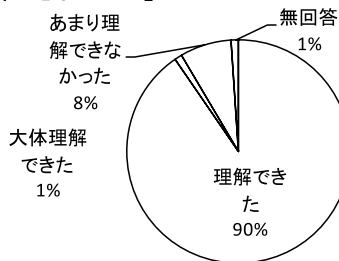
質問①		
良かった	66	70.2%
良くなかった	9	9.6%
どちらでもない	18	19.1%
無回答	1	1.1%
合計	94	100.0%



良かった	<ul style="list-style-type: none"> 友人を作るきっかけになった。 授業の内容を理解することができて、友達や先生方と交流ができたから。 学校のことがよく分かった。 先輩たちとよく話す機会があったから。 友達との距離が一気に縮まった。 これからの学校生活にとり、必要なことを知ることができた。
良くなかった	<ul style="list-style-type: none"> 時間が少なくて残念だった。 物事の進め方の効率が悪いと思った。 講義が多く、もっと友達と触れ合う時間が欲しかった。交流会にもっと時間をとって欲しかった。 ずっと座りっぱなしで、腰が痛くなった。 友達ができない人は、部屋で一人でかわいそうだった。 時間的に美術館見学は要らなかったと思う。 宿泊は1年生だけで良かったと思う。
どちらでもない	<ul style="list-style-type: none"> 入学後すぐに行われるのは、どうかと思った。せめて1週間後など、少し周りのことを知る時間が必要だと思う 入学してすぐの宿泊は、緊張する。 悪くはなかったが、あの内容では学校で出来たと思う。 時間通りに進んでいなかった。 説明の時間が長くて疲れた。

【質問② 学生便覧・履修・資格検定などの説明は理解できましたか】

質問②		
理解できた	85	90.4%
大体理解できた	1	1.1%
あまり理解できなかった	7	7.4%
無回答	1	1.1%
合計	94	100.0%



理解できた	・学校生活や、今後の説明が分かりやすかった。
大体理解できた	
あまり理解できなかった	<ul style="list-style-type: none"> 後日改めて考えてみると、分からないところが多かった。 単位についての説明が曖昧な気がして、不安になった難しかった。

図表 1 2012年度宿泊オリエンテーションアンケート結果

4. プログラムの概要と実施体制

(1) 2013年度新入生宿泊オリエンテーションの概要

①日程 2013年4月4日(木)～5日(金)

他学科とのスケジュール調整の都合上、5日(金)は研修施設から学校到着後、科目履修について説明と仮登録を実施

②場所 国立花山青少年自然の家（宮城県栗原市花山字本沢沼山61-1）

③研修目的 ①学生生活の基本を身につける
②友だちづくり

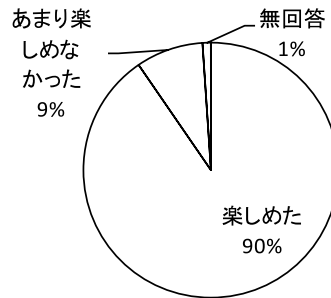
④研修内容 表1・表2のとおり

(2) 研修の実施方法

研修内容自体は、大学や専門学校の新入生、あ

【質問③ 交流会はどうでしたか】

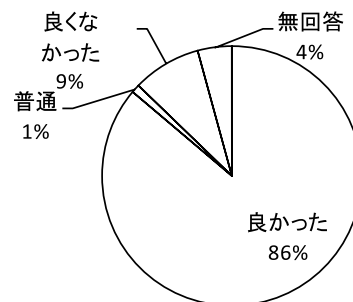
質問③		
楽しめた	85	90.4%
あまり楽しめなかった	8	8.5%
無回答	1	1.1%
合計	94	100.0%



楽しめた	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生とビンゴで直接交流ができたから。 ・2年生が楽しい企画をしてくれて良かった。
あまり楽しめなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生との交流が不十分。

【質問④ ホテルの宿泊についてどう思いましたか】

質問④		
良かった	81	86.2%
普通	1	1.1%
良くなかった	8	8.5%
無回答	4	4.3%
合計	94	100.0%



良かった	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルがきれいによかった。 ・集団行動で友人との仲が深まった。
普通	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生との交流が不十分。
良くなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・食事がまずかった。 ・2人部屋は交流には向かない。二人部屋で気まずい思いをした。

【質問⑤ その他、意見・感想など】

その他、意見・感想など	<ul style="list-style-type: none"> ・大きい荷物をバスの下に入れてもらいたかった ・資格取得後の免除金について、もう少し説明してほしい。 ・大学というよりも高校みたいだと感じた。席が決まっているし、友人との輪が広がらない。 ・スケジュールがきつかった。 ・入学後すぐではなく、もう少したってからの実施がよいと思う。 ・初めて会う友達を宿泊するというのはとても緊張する。 ・宿泊しなくてもよいのではないか。 ・自由時間が少なかった。 ・コミュニケーション力がついたと思う。
-------------	---

図表1 2012年度宿泊オリエンテーションアンケート結果（続き）

るいは、企業の新入社員を対象にして行うものときほど変わりはない。しかしながら、本学に入学してくる学生の特徴や今後の授業展開を考慮し、いくつかの工夫を行った。また、その際、宿泊場所として選択した「国立花山青少年自然の家」が提供するゲームなども積極的に活用した。

まず、研修初めには、なるべく多くの学生と会話ができるように「名刺交換ゲーム」を行わせた。実施方法は以下のとおりである。

〈名刺交換ゲーム〉

1. 名刺サイズの用紙を10枚配布し、各自①名前（フリガナ）②簡単なプロフィール（出身、趣味など）を記入して名刺を作成する。
2. 制限時間を設け、その間自由に歩き回り、出会った人と挨拶を交わし、簡単な自己紹介をした後、ジャンケンをして勝った人が相手の名刺を受け取る。
3. 時間終了後、名刺を多く獲得した者を表彰する。

学生たちは、ゲーム感覚で自己紹介を行うことによって、尻込みせず積極的に相手に挨拶ができたようである。

ビジネスキャリア学科では、学生の出欠状況の管理、また、私語の防止から、授業の際に座席指定をすることが多い。そのため、授業が始まってしまうと、学籍番号の近い学生としか話す機会がなくなってしまいがちである。時間割も空きがなく組まれているため、席が離れた学生との交流が途絶えてしまい、いつも同じメンバーでグループ学習を行うといったことも起こる。そのため、学籍番号の近い学生とうまく関係性が構築されない場合、他の学生に相談することができず、孤立する学生なども出てくる。このようなことを防止するため、また、多様な学生の存在に気づかせるためにも、オリエンテーションの場では、なるべく多くの学生と接する機会を提供すべきであると考えたために導入したものであるが、和やかな雰囲気の中で、初めて出会った学友の名前を覚え、会

話を交わすことは、研修の導入として効果的であった。

また、1日目の夜は、基本的な生活習慣を身につけるためのスタートとして、挨拶をはじめとするビジネスマナーの基本と「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」の大切さを確認させるなど、社会人の常識について研修を行った。

大学では学生が主体的に学業に励むことが求められる。履修登録のミスや事務局への必要書類の提出忘れ等は必要単位が取得できなくなり、卒業延期や中退に結びついてしまうことがある。また、このような事務処理をきちんと行えないことは、就職活動や就職した後の業務に著しい影響を及ぼす。自分自身の行動に責任がもてる人材は周囲に信頼される。そのためには、学生のうちから、社会人として常識ある行動ができるように訓練しておかなければならない。高校では担任や進路指導の教員が生徒の生活指導をきめ細やかに行うが、大学生は社会人になる前の準備期間にあるため、学生生活を自己責任において管理していくことを学ばなければならない。

さらに、規則正しい生活や集団生活での秩序を理解させるため、施設が指示する「であいのつどい」「ゆうべのつどい」「朝のつどい」「別れのつどい」を行った。例えば、「であいのつどい」であれば、「入所の心構えを確認するとともに、これからの生活への意欲を高める」ことをねらいとし、集合・整列し、団体旗を掲揚して、施設側から歓迎の言葉をうけるという流れとなっている。このような儀式に参加することにより、学生たちは、時間を厳守して集合したり、誰かの話を聞いたりすることの大切さを認識させるという効果があった。

このような内容の研修をスケジュールにそって円滑に進めるには、会場設営や学生誘導を的確に行う必要があり、各教員が積極的に関与したものの、スケジュールが若干過密で教員の負担が重くなった。この点については、今後改善が必要であろう。

表1 新入生オリエンテーション日程表(1日目)

<1日目> 4月4日(木)

タイム		場所	内容	所要時間	教員役割	備考
13:15	集合 乗車	学生ラウンジB バス	受講番号で分かれて乗車 1号車(受講No.1~40) 担当: 2号車(受講No.41~80) 担当: 3号車(受講No.81~120) 担当:	15分	◎団長() ○緊急窓口() *写真担当() ①乗車呼びかけ() ②号車ごと学生点呼 ③私用車() ④私用車()	◎以下の機材手配 ○学校携帯 *デジカメ ・PC ・ハンドマイク ①ハンドマイク使用 ②ボード&名簿準備 ③学生緊急対応
13:30	出発	バス		1時間 50分		
15:20	到着	花山青少年自然の家			誘導()	ハンドマイク使用
15:25	集合	オリエンテーション室	《出会いのつどい》 ・施設職員から注意事項等 ・宿泊中の役割等の説明 (●部屋代表 ●シーツ担当)	10分	司会() 担当等の説明()	シーツ受取等の役割や 場所
15:35	移動	宿泊室	・荷物の運び入れ(各自) ・シーツ受け取り (●シーツ担当) ・同室者顔合わせ	20分	・入所手続() ・シーツ貸出場所待機→ 配布()	
15:45	移動	大研修室(2F) (男子学生のみ)	・会場設営(男子学生) 一足先に大研修室(2F)へ		・会場設営() 男性教員指示	机・イスの搬入等
15:55	集合	大研修室(2F)				
16:00			【研修①】 ・開会の挨拶 ・学科長挨拶 ・教員紹介 ・スケジュール&注意事項説明 ・自己発見検査 ・学生個人調書の記入→回収 ※終わらない人は研修③で ・名刺カードの配布&記入説明 (自己紹介ゲームで使用)	50分	司会() ()1分 ()1分 (教員自己紹介)7分 ()5分 ()20分 ()10分 ()5分 ・教員も作成する	1人1分以内厳守 個人調書記入中に 名刺カード配布 名前・フリガナ・趣味 等を記入させる
16:50	移動		(トイレ休憩を含む)	10分		
17:00	集合	つどいの広場 ※荒天時は オリエンテーション室 (以下同じ)	《タベのつどい》 ●国旗・所旗降納(学生4名) ●学生代表発表(学生1名) ・連絡事項	15分	司会() 連絡事項() 夕食の場所・取り方 食物アレルギー	
17:15	移動		(トイレ休憩を含む)			
17:25	集合	食堂				
17:30	フリー		夕食(部屋ごと、部屋代表 開始終了挨拶) 食事後はフリータイム	55分		
18:25	集合	オリエンテーション室				
18:30			【研修②】 ・自己紹介ゲーム	45分	司会() () デモ()5分	賞品準備 ・上位5人 ・全室配布可能菓子
19:15	移動		(トイレ休憩を含む)			
19:25	集合	大研修室(2F)				
19:30			【研修③】 ※学生個人調書回収 ・将来の自分をプロデュース ・挨拶とお辞儀 ・身だしなみ ・名札の着用 ・ハウレンソウ ・時間厳守(5分前行動) ・翌日のスケジュールと注意 ・初日終了の挨拶	70分	司会() () ()25分 ()45分 () ()	・回収箱設置() ・PC・プロジェクター スクリーン設置 (男性教員)
20:40 ~ 21:50	フリー	浴室 女子(山の湯) 男子(花の湯)	入浴&フリータイム *ドライヤーの使用制限厳守 (洗面スペースで1台のみ)	70分		男性教員(花の湯) 女性教員(星の湯)
22:00	就寝				教員反省会	談話室(おおるり)にて

女子学生の入浴時間は宿泊室による
20:40~21:15 はくちょう・きびたき・
やまどり・かっこう
21:15~21:50 うぐいす・いわつばめ・
こと座・わし座

表2 新入生オリエンテーション日程表(2日目)

<2日目> 4月5日(金)

タイム		場所	内容	所要時間	教員役割	備考
6:30	起床	宿泊室	・起床 ・身支度 *ドライヤーの使用制限厳守 (洗面スペースで1台のみ) ・清掃(宿泊室・共有スペース) ・毛布たたみ ・シーツ返却(●シーツ担当)			
7:15	集合	つどいの広場	《朝のつどい》 ●国旗・所旗掲揚(学生4名) ●学生代表発表(学生1名) ・スケジュール説明と注意	15分	司会() ()	
7:30	フリー	食堂	朝食(部屋ごと、部屋代表 開始終了挨拶) 食事後はフリータイム	60分		
8:30			宿泊室完全退去 (プレイルームロッカーに荷物移動、 貴重品は自己管理)			
8:40	移動	宿泊室 (●部屋代表) 大研修室(2F) (その他全員)	施設職員による室内点検 ●部屋代表立会い (トイレ休憩を含む)	20分	教員側立会い()	
9:00	集合	大研修室(2F)				
9:05			【研修④】 ・2日目開始の挨拶 ・前日の復習(挨拶・お辞儀) ・事例研究「Sさんの学生生活」	85分	司会() () ()15分 ()70分	
10:25			(休憩)	10分		
10:35		大研修室(2F)	【研修⑤】 6人×20チーム ・漢字ゲーム ・ココどこオリエンテーリング ・研修終了の挨拶	1時間 50分	司会() ()書記() 30分程度 60分~90分 ()	ホワイトボード:点数記入 表彰(上位5チーム) 賞品あり 早めの終了→昼食へ
12:25	集合	食堂	・男子学生は大研修室復帰		大研修室復帰(男性教員)	
12:30	フリー		昼食(部屋にこだわらず取って可) 食事後はフリータイム	60分		
13:30	集合	つどいの広場	※荷物を持って集合 《別れのつどい》 ●学生代表挨拶(学生1名)	10分	司会()	
13:40	集合	利用者玄関前	記念撮影(場所は当日指示)	10分	整列指示()	
13:50	集合 乗車	バス	1号車(受講No.1~40) 担当: 2号車(受講No.41~80) 担当: 3号車(受講No.81~120) 担当:	10分	退所手続() ①乗車呼びかけ() ②号車ごと学生点呼 ③私用車()	請求書受け取り ①ハンドマイク使用 ②ボード&名簿準備 ③学生緊急対応
14:00	出発	バス		1時間 50分		
15:50	到着	青葉短大			学校に報告()	請求書の処理
16:05	集合 移動	301教室	・宿泊オリエンテーション終了宣言 ・履修登録の説明		()→事務局へ引継 (五橋キャンパス事務)	全教員立ち会い
16:05	集合	情報・語学室	・PC仮登録	1時間	(五橋キャンパス事務)	
17:35	(終了)			30分		

部屋名	係	担当者名
	● 部屋代表	名簿参照
	● シーツ担当	名簿参照
	● 国旗・所旗降納	()()()
	● 国旗・所旗掲揚	()()()
	● 学生代表	夕べのつどい()、朝のつどい()、 別れのつどい()

表3 高等教育段階の中途退学者の状況

【中途退学者の状況（学校種別）平成20年度末（3月20日時点）】

理由	国立		公立		私立		高専		計	
	退学者数 (人)	構成比 (%)	退学者数 (人)	構成比 (%)	退学者数 (人)	構成比 (%)	退学者数 (人)	構成比 (%)	退学者数 (人)	構成比 (%)
学業不振	654	9.3%	137	9.8%	5,565	14.0%	180	14.9%	6,536	13.2%
学校生活不適應	143	2.0%	77	5.5%	2,072	5.2%	67	5.6%	2,359	4.8%
経済的理由	624	8.9%	143	10.2%	6,944	17.5%	4	0.3%	7,715	15.6%
就職	1,406	20.1%	159	11.4%	4,851	12.2%	117	9.7%	6,533	13.2%
転学	786	11.2%	269	19.2%	5,616	14.1%	479	39.7%	7,150	14.5%
海外留学	60	0.9%	15	1.1%	216	0.5%	0	0.0%	291	0.6%
病気・けが・死亡	351	5.0%	111	7.9%	2,775	7.0%	35	2.9%	3,272	6.6%
その他	2,969	42.4%	507	36.3%	11,558	29.0%	325	26.9%	15,359	31.1%
合計	6,998	99.9%	1,398	101.4%	39,791	99.5%	1,207	100.0%	49,394	99.6%

【中途退学者の状況（学校種別）平成19年度末（3月31日時点）】

理由	国立		公立		私立		高専		計	
	退学者数 (人)	構成比 (%)	退学者数 (人)	構成比 (%)	退学者数 (人)	構成比 (%)	退学者数 (人)	構成比 (%)	退学者数 (人)	構成比 (%)
学業不振	979	9.3%	168	9.6%	6,703	13.5%	220	13.5%	8,070	12.7%
学校生活不適應	239	2.3%	105	6.0%	2,761	5.6%	108	6.6%	3,213	5.1%
経済的理由	932	8.9%	169	9.7%	7,780	15.7%	12	0.7%	8,893	14.0%
就職	2,171	20.7%	230	13.2%	6,565	13.3%	168	10.3%	9,134	14.4%
転学	1,190	11.3%	338	19.4%	7,362	14.9%	574	35.3%	9,464	14.9%
海外留学	60	0.6%	17	1.0%	464	0.9%	3	0.2%	544	0.9%
病気・けが・死亡	451	4.3%	97	5.6%	3,293	6.6%	41	2.5%	3,882	6.1%
その他	4,483	42.6%	640	36.7%	14,335	28.9%	509	31.3%	19,987	31.5%
合計	10,512	99.9%	1,743	101.2%	49,541	99.4%	1,625	100.6%	63,421	99.6%

(資料)各大学等の授業料滞納や中退等の状況調査(平成21年3月20日時点及び平成20年3月31日時点)

(1)調査対象：国・公・私立大学、公・私立短期大学、高等専門学校1,225校

(2)有効回答：計1,148校(93.7%)

出所)文部科学省(2010)各学校段階における卒業者・中退者の状況(一部推計)

5. 宿泊オリエンテーションの効果

2013年度の宿泊オリエンテーションの効果としては、以下の点が教員から報告されている。まず、ゼミ担当の教員やグループ学習を実施する授業を行った教員からは、行事やグループワークに積極的に参加する学生が増えたという報告があった。また、授業中も教員の注意に素直に従う学生が多く、授業運営がしやすいという話もあった。授業中の私語は全くなならないというわけではないが、例年に比べて少ないとの感想も聞かれた。

また、本学科では年2回、学生の個別面談を行っている。1年次の面談内容は「①大学生活に慣れたか、②人間関係で不安なことがあるか、③健康

面で不安なことがあるか、④勉強にはついていけているか、⑤今、希望している履修コースは何か、⑥就職について家族と話し合っているか、⑦その他」である。1回目の面談は5月から6月にかけて実施される。個別面談の結果、概ね①の回答は「はい」、②の回答は「いいえ」のが殆どであったことから、宿泊オリエンテーションの目的である「学生生活の基本を身につける」、「友だちづくり」の2点に対しての効果が確認できた。

さらに、上記②において、現在行動を共にしている友人との出会いは「いつ・どこであったか」を学生に質問したところ、宿泊オリエンテーションで仲良くなったと回答した学生が圧倒的に多く、次いで同じゼミのメンバーであった。また、興味

深かったのは入学式の席が隣りだった、「仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科の入学者」を呼びかけたツイッター等により、面識のない段階からメール交換によってすでに意気投合している現象もみられた。宿泊オリエンテーションで2日間寝食共にすることで、さらに友情が深まったという回答も得られた。

退学者についてみると、入学者119名のうち2014年1月30日現在、3名であり、退学率は2.52%である。大学中退率は10%（OECD Education at a Glance 2012）、12%（日本中退予防研究所「中退白書2010」）の報告から、大学中退率は10%～12%といわれている。表3は、文部科学省の各学校段階における卒業生・中退者の状況（一部抜粋）であるが、大学・短期大学・高等専門学校のみを対象としており、中退者数は約6.9万人と推計されているが、本学の退学率は2%台にとどまっており、宿泊オリエンテーションの効果は大きいといえる。

6. 今後の課題

冒頭にも述べたが、ともに学ぶ仲間の存在は、学生生活を充実させ、また、困難なことが生じた際に乗り越える原動力ともなる。早期段階で友人関係の構築と学内での居場所づくりは学生生活に大きく影響する。そのきっかけの一助となるオリエンテーションの内容が望まれる。

2013年度の宿泊オリエンテーションは、費用面から見ると格安であったが、様々な活動については教員の準備や実施の負担が大きかった。今後は、開催場所の変更を含め、カリキュラムの内容を精査し、少ない教員数でも効率よく実施でき、かつ、研修効果が最大となるよう工夫が必要であろう。